

## 第4回環境審議会質問や指摘事項への回答

### 1 第5章の2. 数値目標の②事業系ごみの目標の数値が高いのではないかと減らせる根拠があるのか。

【回答】

事業系ごみに関しては毎月、収集運搬許可業者から「一般廃棄物処理状況報告書」が提出されており、各事業所の毎月のごみの量が分かることから、その内容を分析し排出量が4 t未満の事業所にも更なるごみの減量化、資源化を促します。具体的には商工会を通じまたは直接事業所に、食品廃棄物をバイオガス化施設ニューエナジーふじみ野に搬入を毎年促していきます。また、本日ご審議いただく食品ロス削減推進計画でも、国の計画に合わせ事業系食品ロスを420t減らす目標もあることから、事業系ごみの削減目標を変更することなく前期計画と同じ5,106tとさせていただきます。

### 2 第5章の1. 基本理念・基本施策に「富士見市ゼロカーボンシティ宣言」を記載すべきである。

【回答】

第5章の1. 基本理念・基本施策に「富士見市ゼロカーボンシティ宣言」について記載しました。

### 3 第5章の2. 数値目標の予測値は、令和12年度目標のところに記載したほうが見やすいのでは。

【回答】

ご指摘のとおり、令和12年度目標のところに記載します。

### 4 資源化率を19%に上げるのは難しいのではないかと。

【回答】

前回の環境審議会でのご指摘から令和6年度実績と同じ17.5%目標に設定します。取組といたしまして、まちづくり講座のメニューに集団資源回収のやり方を追加し、また店頭回収の資源リサイクル量を把握し、その数値を資源化量に足すなどして資源化率の向上に取組み、また、富士見市の給食センター、ららぽーと富士見などの事業系食品廃棄物が年間約329tバイオガス化施設に資源として搬入されていますことから、国の廃棄物の統計上、資源物として報告できるか検討します。